

## 平成22年度第2回秋田県農地・水・環境保全向上対策に関する検討委員会 議事録

日 時：平成22年9月14日（木）午後1時から

場 所：横手市平鹿町樽見内地域・横手市平鹿生涯学習センター

出席者：長濱健一郎、児玉徹、阿部幸悦、柏田一雄

### 議 事

#### 1 現地視察

樽見内農村公園～各集落植栽地～施設保全（目地補修）～小勝田沼

#### 2 意見交換会（横手市平鹿生涯学習センター）

（1）事務局 （農山村振興課長より挨拶）

（2）議長あいさつ （長濱健一郎委員長）

- ・ 秋田県の農地・水・環境保全向上対策は全市町村で積極的に行われており、検討委員会では100点満点を与えられる程のすばらしい活動をされていると考えております。
- ・ その中で、もっとも活躍されているのが、樽見内地域資源保全委員会と聞いている。本日は、NPO法人化に至った経緯から組織の取組について勉強させてもらいたい。

（3）取組活動について説明（渡部副理事長）

（4）活動に関する意見・感想

樽見内地域資源保全委員会（石山理事長）

- ・ 水路・農道の維持管理を実践することにより交付金が入り、農家の負担軽減に役立っている。また、土地改良区が管理であった補修管理についても、農家が率先して意識し作業するようになった。
- ・ 本対策を行った結果、地域が明るくなったと考えている。植栽活動では、農家・非農家が一体となって作業し、交流が広がり地域の輪が再生されたと感じている。
- ・ 対策の活動にあたり、本組織で気をつけていることは、会議の開催を多くし、マンネリ防止に努めている。また、視察研修の受け入れを多く行っており、平成22年9月5日現在まで、38組織10

27名が当地を訪れ、情報交換に努めている。

#### 樽見内保育園（武藤保育園長）

- ・ 最近の保育園の傾向として「食育」について重要視している。
- ・ 保全委員会の協力のもと、さつまいもを植えている。子供たちに自然の豊かさに触れてもらい、自分たちが植えたものを、みんなで収穫し、みんなで一緒に食べることを実践している。
- ・ 「世代の交流」を大事にしている。最近は核家族化で、子供たちは老人と会話する機会がない。話す機会をなるべく設け、老人・子供たちにいきいきしてもらっている。NPOだからこそ出来る交流をさせてもらっている。
- ・ 12月に餅つきを行いたいと考えている。横手市社会福祉協議会の協力を得て、一人暮らしの老人などと保育園児の交流を図っていきいたいと考えている。

#### 農村文化の継続について（小野寺）

- ・ 年中行事・祭り（鹿島、しめ縄、雪穴等）に力をいれている。
- ・ 農村は薫文化が重要であると考えていることから、昔ながらの農法も進め、懐かしい農村風景を醸し出している。
- ・ 本対策は農地・水の保全だけでなく、地域の活性化、にぎわいの創出に役立っている。

#### 高畑営農生産組合（佐々木）

- ・ 営農精神も薄れ、高齢化や米価の低下により農村が停滞してきたときに、この対策が始まり、私たちに元気を与えてくれた。
- ・ 交付金により、地域に「やる気」もでてきたことから、ぜひ事業の継続を望む。

#### 平鹿町土地改良区（首藤）

- ・ この対策により、地域の施設の維持管理に応援をいただいて、感謝している。また、地域住民の信頼関係が向上し、地域の結束が強くなった。
- ・ この対策のおかげかどうかわからないが、改良区の賦課金の滞納がなくなった。

#### 樽見内緑会老人クラブ（小松）

- ・八幡神社の奉仕活動、福祉施設訪問など、小学生・保育園児と一緒に楽しくやらせてもらっている。この対策を通じて、自分たちがこまで貢献できるとは思っていなかった。
- ・高齢者と若者で地域を盛り上げたいという気持ちが沸いてきている。

#### 樽見内親子会（藤原）

- ・水源地研修（成瀬・皆瀬頭首工）や施設見学、このような研修見学会は子供会だけではできないと感じている。
- ・今の子供たちは自然にふれあう機会・時間が少なくなっている。決して興味がないわけではない。このような機会を手助けしてやれば、子供たちは、もっとキラキラすると思う。これからも地域とともに思い出に残る活動をしていただけたらと思う。

#### 豊前地域資源保全活動組織（佐藤）

- ・この対策により、農業用ポリの放棄や野焼きが減ったことが喜ばしい。最初は、みんな半信半疑で取り組んだが、自分たちが植えた芝桜が、3年目にして花が根付き、地域の気持ちが変わり、みんなが喜んでくれている。
- ・各組織いろんな問題を抱えており、リーダー育成・応援するような態勢（事業）があればよいと思う。良いリーダーがいれば、良い活動をすると思う。

### （5）委員からの感想・質疑応答

#### 児玉副委員長

- ・JAふるさと管内では、契約栽培・循環型農業をやって理想的であるが、長い間、有機物を活用してきているため倒伏が多く見られる。
- ・せっかく循環型農業に取り組んでいることから、今後気をつけてもらい、健康な稲づくりをお願いしたい。

#### 阿部委員

- ・こんなすばらしい説明を受けたのも初めてだし、こんなに活発な活動をされているのも初めてでした。
- ・私が住んでいる地域の組織から意見をきくと、「活動がめんどくさい」、「事務量が多く大変」と聞いていた。
- ・樽見内はNPO法人化され、様々な活動をされているのにもかかわらず、

皆さんから継続してもらいたいという話を聞き、良い事業なんだなと感じた。

- ・リーダーがきっちりしているから、こんなに素晴らしい活動が出来ている。

柏田委員

- ・小学生・園児の活動が活発だが、中高生の参加はどうなっているか。部活動の制約があったりして参加が難しいのかなと感じている。
- ・将来構想として、他県の修学旅行生の受け入れや東アジア（中国・韓国）との交流についても発展的な課題も考えられるのではないかと感じています。
- ・この活動を通して、幼児の時から命の大切さ、農産物を育て命の大切さを着実に育てているおられることに感銘した。

長濱委員長

- ・各組織との連携が素晴らしい。他の組織は高齢化により、これからの活動ができないなどの声も聞こえているが、樽見内の組織では、近隣組織と連携して活動されていることが素晴らしい。
- ・地域の中に小さなビジネスでもかまわないので、地域内にお金を落とすような工夫が必要ではないか。

#### (6) まとめ（長濱健一郎委員長）

本日の委員会の内容について、私たちの今後の施策の評価の参考にさせていただきたいと考えている。皆様におかれましては、これからも農地を守り継ぎ集落の活性化に向けて、より効果の高い活動を展開していただきたい。

#### (7) その他

保坂農山村振興課長

- ・リーダーを育成する仕組みについて、活力人養成セミナーを行っており、60名程を育成していきいている。もし、参加されたいと思っている方々については、案内を差し上げたい。
- ・約1,000名の交流が今まであったのであれば、例えば、グリーンツーリズムを取り入れ、仮に農家民宿があれば、少しでも地域にお金を落とす話になったのではないかと考えている。ぜひ検討していただきたい。

15:35 終了